平成29年度　横浜市世界を目指す若者応援事業

（個人留学による帰国報告）

●氏名

ＴＮさん

●留学先

国/都市：ベルギー/Roux-Miroir Incourt

外国の高校：KA Redingenhof

●留学期間

平成29年８月25日～平成30年７月８日

●留学先での活動、留学で学んだこと

私はこの一年間でベルギーに行き、ベルギーという国の言語的特異性について学んできました。

ベルギーは一つの国でありながら、国の中に公用語が二つ存在していて、しかもその言語の境目がはっきりと地図で見ることができます。私はベルギーのワロン地域（フランス語が喋られている地域）に住んでいて、学んだ言語、通った学校はオランダ語の地域（フランデレン地域）だったので、その言語的な特徴を肌で感じることができました。同じ国でありながら、地域の境目を超えるとオランダ語が通じなくなる社会。この感覚は同じ国でありながら別の国に行っているような不思議な感覚でした。さらにブリュッセルではこの言語的特異性が色濃くつまっていて、ブリュッセルの中では電車のアナウンス、町の掲示板などがすべて二か国語で表示されていました。私はこのような二か国語の環境で過ごし、やはり英語だけではない第三、第四か国語に触れる意義を捉え直しました。

私は将来、このベルギーで学んだ言語的特異性を活かして、様々な言語が飛び交う環境に身を置いてみたいと思っています。英語、日本語に加えてオランダ語という新たに一つの新しい言語を習得したことは私がそこの世界において、そこの国の人と同じようなレベルまで根を下ろすことができることです。

他人とより多く触れ合うことが、私にとっての将来の大きな目標であり、この留学で言語を会得することを通して、より深く他人と関わることができたと思っています。英語ではなく、私にとって第三言語であったオランダ語を一年間使って生活した経験。英語ではない、その国の言語で一年生活した経験。そして何よりも一つの国の中でも二つの公用語が存在し、その中で刺激を受けたこと。この一年、第三言語をつっかえながらも使おうとしたこと。これらの経験は、これから様々な人と触れ合うときに、言語にも、他人にも怯えないように人と関わる大きな一歩になったと私は考えています。私はまだたったの一年しか海外を見たことがないため、これからもっといろんな場所へ行き、他人と関わる中で、私自信を磨いていければと思っています。

最後に私の留学を支援してくださった、この横浜市国際局の奨学金。そしてその奨学金を支援してくださった支援者の皆様に厚く御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。